

新住協全国総会で「断熱改修」を話してみても…

勇和建设株式会社

齋藤保雄

NPO法人新住協の全国総会(長野県松本市)に参加して、鎌田先生からご指導を頂いた「断熱改修施工事例」について、2日目の研修会の中で報告をするという機会を頂きました。

毎年必ず総会に参加しておりますが、全体研修会で報告をさせて頂くのは、98年の新潟総会の時に「桁上断熱」の報告をさせて頂いて依頼、8年ぶり2度目です。ということは、弊社が桁上断熱に取り組んで、10年目、ということにもなるんですね。

さて、断熱改修事例は、築25年の在来木造2階建てモルタル住宅を、モルタルを全撤去することなく、気流止め&付加断熱でリフォーム、という内容でした。足元はGW基礎断熱、天井は屋根掛替えで桁上断熱を採用。基礎断熱・桁上断熱には自信が有ったのですが、モルタル残して気流止めだけで、壁の気密が確保できるのかが心配でした。

でも、うまくいきましたねえ。気密測定値  $10.5 \text{ cm}^2/\text{m}^2$  が、 $1.5 \text{ cm}^2/\text{m}^2$  になりましたから。モルタルの上からタルキで強力でビス止めする耐震改修工法も、うまくいったようです。筋交や構造用面材に頼ることなく、「大型車が近くを通っても、家が揺れなくなった」というオーナー感想を頂いております。基礎断熱・床下暖房も効果的で、1階居間の床表面温度が20度になっておりました。

以上のような内容の報告をさせて頂いたのですが、予感通り「質問続出」でした。特に、床下防湿シートのない住宅の基礎断熱改修については、未だに明快な結論が出ていないところでもあります。(大方のすう勢は、防湿無くても可なのですが・・・)

札幌でも機会を頂ければ、報告をさせて頂きたいと思います。この「断熱改修」については、新住協会員の多くが取り組んでいるところだろうと思います。最近、Q1.0の話題が多い新住協ですが、各社で取り組んでいる「断熱改修アイデア」を情報交換し、「現場から考えた断熱改修」なる勉強会を企画してみるのも良さそうに思います。

「壁をはがしてGW入替え・小屋裏にはブローイング」というリフォームしか知らないユーザーと同業者に対して、NPO法人・新住協が「気密化・気流止めを基本とした正しい断熱改修」を積極的に発信していくべきだと思います。